

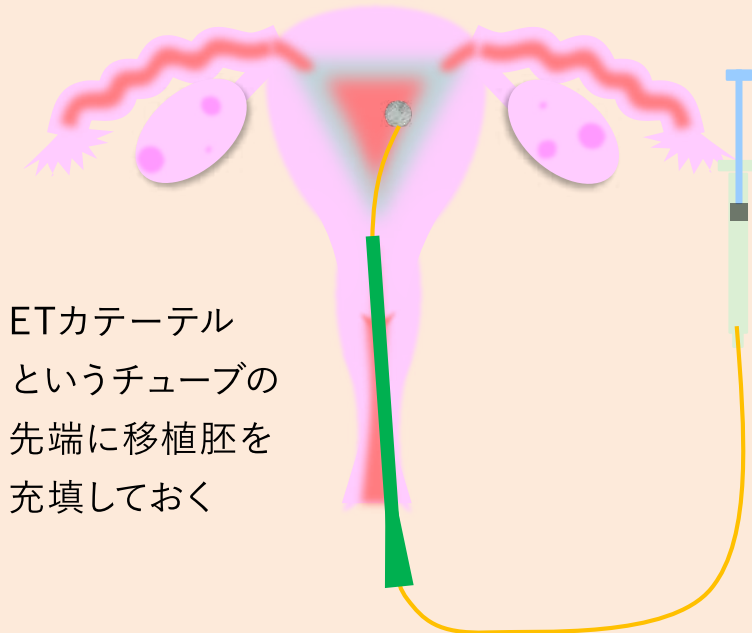
胚移植について

胚移植とは、細いカテーテルを子宮内に挿入し、胚を子宮内に戻すことです。

痛みを感じることはないので、麻酔は使用しません。

このため胚移植後は、安静にすることなく直ぐに帰宅できます。

胚移植のイメージ



ETカテーテル
というチューブの
先端に移植胚を
充填しておく

当院の胚移植は、経膣超音波を用いて行います。エコー画面に子宮内膜が鮮明に映るため、良い位置に確実に移植をすることができます。

経腹超音波だと尿を膀胱に溜める必要があります、状態によって子宮内膜が見えにくくなります。

胚移植は分割期の胚を移植する場合と胚盤胞を移植する場合があります。

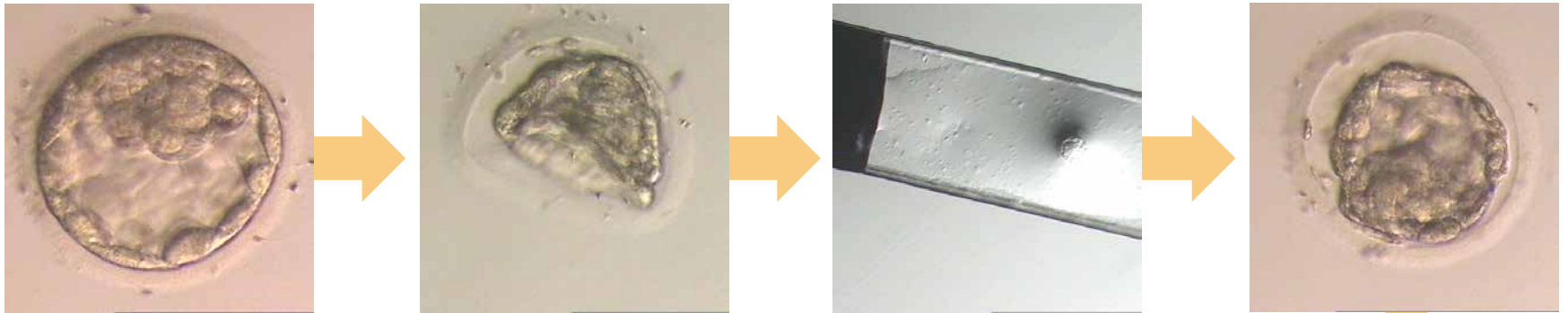
当院における融解胚移植は胚盤胞を用いて行います。

凍結保存と融解胚移植について

理論的には胚を液体窒素中(−196℃)で半永久的に保存可能

融解後の生存率は非常に高く(99%以上)が、凍結前と変わらない状態で生存しています。

※胚盤胞の質が悪い場合は、凍結障害が発生し死滅する場合があります。



■凍結保存を行うメリット

- 胚移植の妊娠率は採卵時の患者年齢に強く影響を受けます。
凍結保存をすることで、数年後の胚移植に若い年齢時に採取した胚を使用できます。
- 胚盤胞が複数個ある場合、次回の胚移植のために胚盤胞を保存することができます。
- 子宮を妊娠しやすい状態に整えてから胚移植することができます。

これらのことから、融解胚盤胞移植は妊娠率の向上につながります。



融解胚移植へ

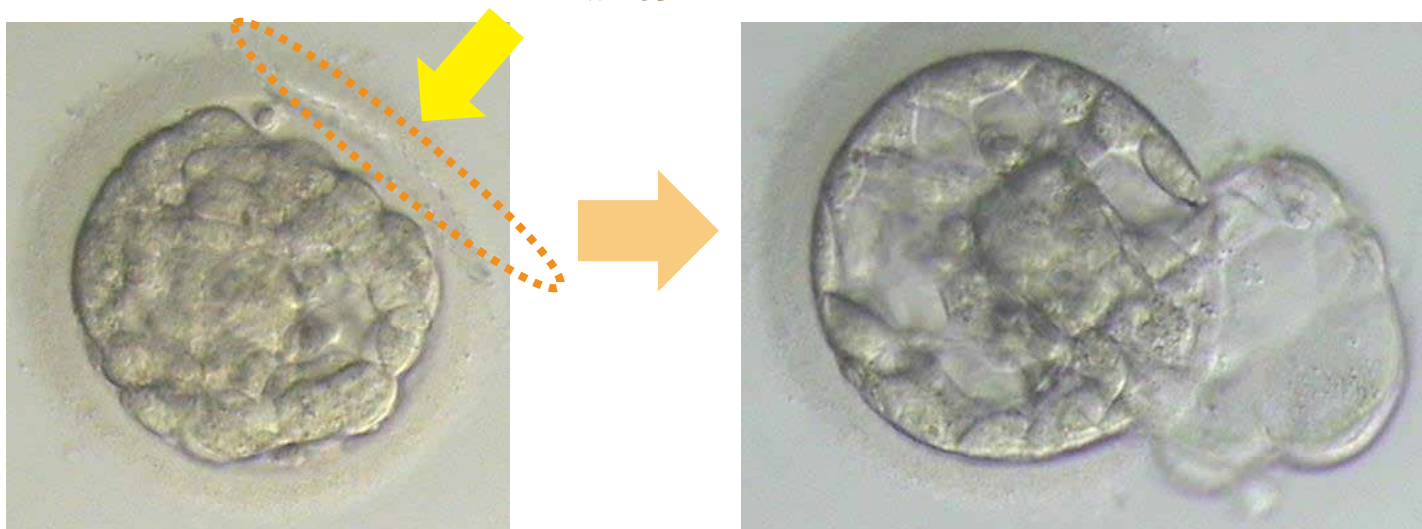
レーザーアシステッドハッチング (LAH)

LAHは、レーザーによって受精卵の透明帯を開孔または菲薄化し、透明帯からでること（ふ化）をしやすくする技術です。受精卵は透明帯からでること（ふ化）で妊娠します。

ですが、透明帯は凍結によって硬化し、受精卵のふ化を妨げます。

LAHによって透明帯をふ化しやすい状態にすることにより、妊娠率の向上につながります。

レーザーを照射

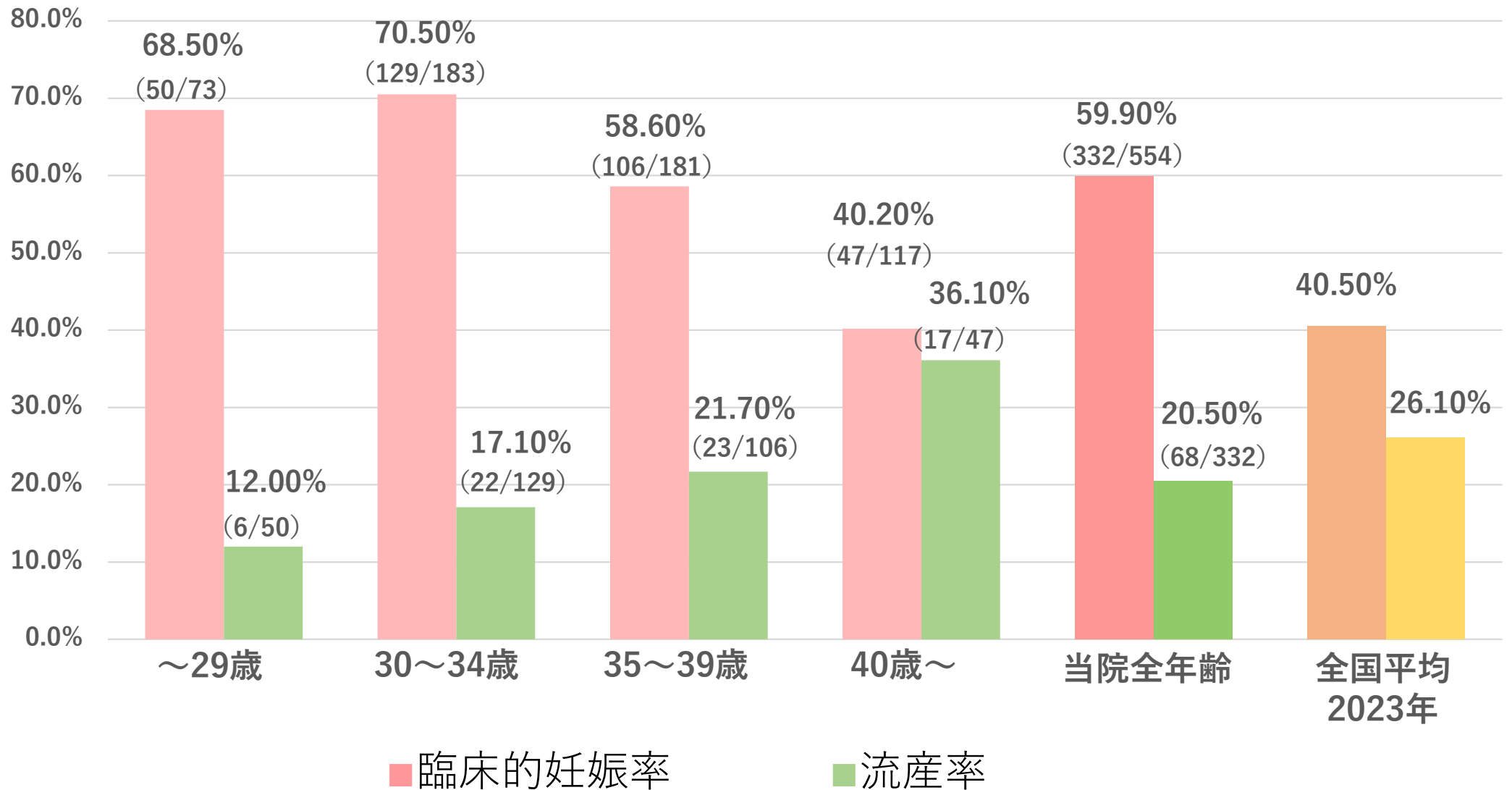


レーザーを照射した透明帯の部分から受精卵がふ化していることが分かる。

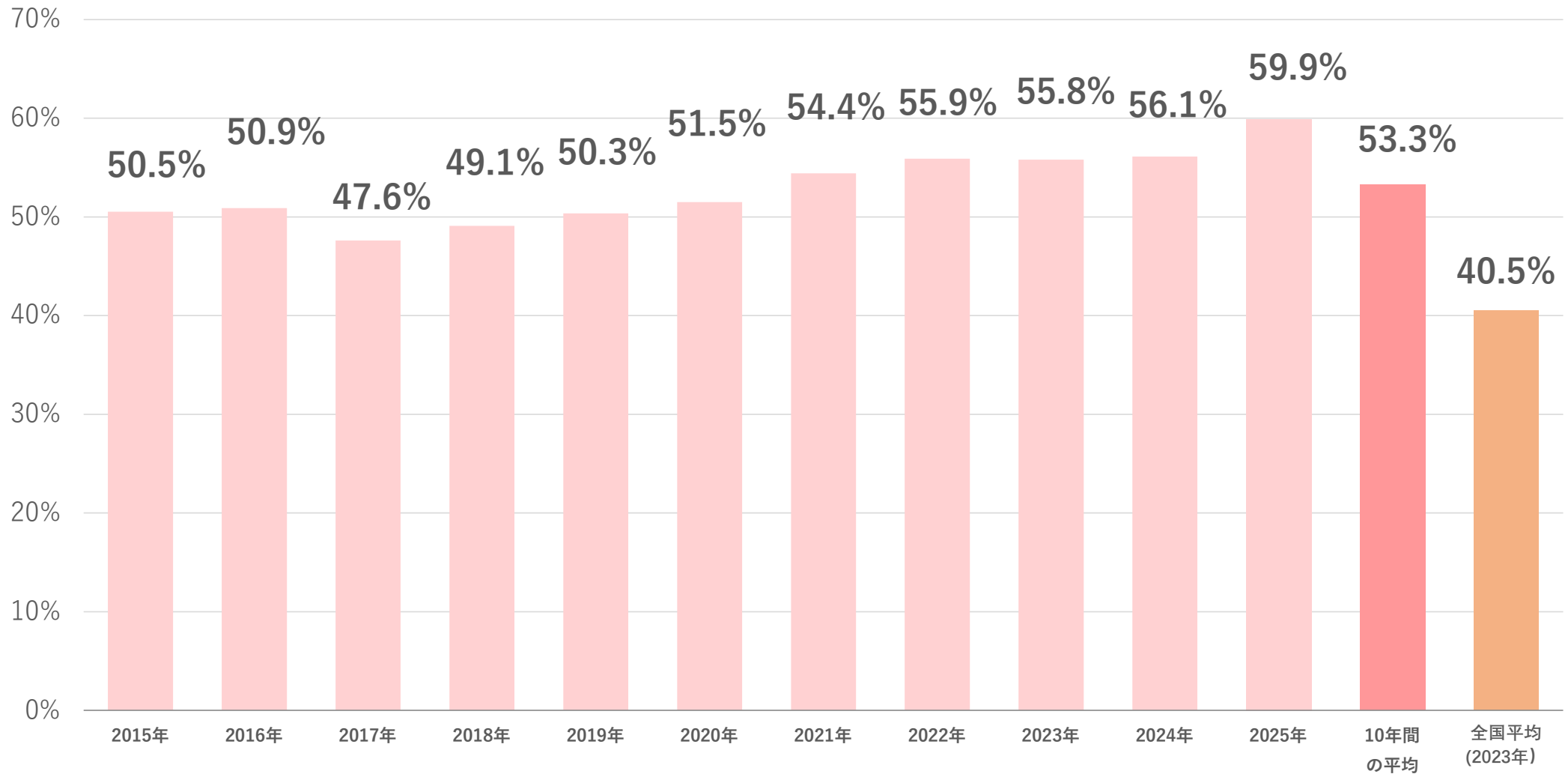
受精卵がふ化することで妊娠が成立します。

融解胚移植（年齢別）の妊娠率

（2025年1月～12月）



クリニックママの10年間の 融解胚移植における妊娠率



超音波検査で胎嚢が確認できた場合を妊娠例とし、血液検査と尿判定で陽性のみの場合は妊娠例に含んでいません。